

捕虜収容所の思索から 新しい哲学の誕生まで――

# レヴィナス著作集 1

捕囚手帳ほか未刊著作

全3巻予定

EMMANUEL LEVINAS, CARNETS DE CAPTIVITÉ et autres inédits

R. カラン, C. シャリエ 監修／三浦直希・渡名喜庸哲・藤岡俊博 訳

戦争の惨禍を生き延び、全体性の暴力に抗して〈他者〉の倫理学を創出した哲学者エマニュエル・レヴィナス。その思想の生成と展開を示す、戦前から戦後期に書かれた哲学的な覚え書きや小説作品、講演原稿などの未刊テキストを集成する著作集、待望の邦訳刊行！ 初巻には、捕虜収容所時代の手帳や論考をはじめ、『全体性と無限』準備期の哲学雑記を収録。

上製・A5判／572頁 定価（本体5200円＋税） ISBN978-4-588-12121-0 C1310

目次	I 捕囚手帳（1940-1945年）
	II 捕囚をめぐるテキストとベルクソン讃 捕囚／イスラエルびとの捕虜における精神性 ／ユダヤ的捕虜体験／ベルクソン讃
	III 哲学雑記

\*続刊（2015年以降刊行予定）

- 2 哲学コレージュ講演集
- 3 エロス、文学と哲学

## エマニュエル・レヴィナス (Emmanuel Levinas)

1906年リトアニアに生まれる。1923年から30年までストラスブール大学で哲学を学ぶ。28年から29年にかけてフライブルクに滞在し、フッサールおよびハイデガーのもとで現象学を研究、30年フランスに帰化し、第二次大戦中はナチの捕虜収容所にフランス解放まで抑留される。戦後、東方イスラエル師範学校長を務めるとともに、ジャン・ヴァール主宰の「哲学コレージュ」で数多くの講演を行なう。61年に『全体性と無限』にて国家博士号を取得、ポワチエ大学、パリ・ナンテール大学、ソルボンヌ大学で教鞭をとる。95年12月25日パリで死去。おもな著作に『フッサール現象学の直観理論』『実存の発見』『困難な自由』『聖句の彼方』『諸国民の時に』『われわれのあいだで』（法政大学出版局）、『全体性と無限』（国文社、岩波文庫）、『存在の彼方へ』（講談社学術文庫）、『実存から実存者へ』『倫理と無限』（ちくま学芸文庫）、『タルムード四講話』『タルムード新五講話』『観念に到来する神について』（国文社）、『固有名』『外の主体』（みすず書房）がある。

----- 切り取って最寄りの書店にお渡し下さい -----

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3 法政大学出版局 TEL03-5214-5540/FAX03-5214-5542

注文書	レヴィナス著作集 1	捕囚手帳ほか未刊著作	ISBN978-4-588-12121-0 定価（本体5200円＋税）	（ 冊 ）	書店名・番線
	レヴィナス著作集 2	哲学コレージュ講演集（仮）	定期のご予約を承ります	（ 冊 ）	
	レヴィナス著作集 3	エロス、文学と哲学（仮）		（ 冊 ）	
お名前： _____		☎ _____			
ご住所： 〒 _____					